

召会における正しい一つ思いのビジョン

聖書：エペソ 4:3-6. マタイ 18:19. 使徒 1:14. 2:46. ローマ 15:5-6

I. 召会における一つ思いは、からだの一、すなわちその霊の一を実行することです——エペソ 4:3-6：

- A. わたしたちはエペソ第4章4節から6節で見ることができますが、わたしたちが一を実行することは召会の一の属性に基づいています。それは一つ霊、一つ主、一つ神、一つからだ、一つ望み、一つ信仰、一つバプテスマです。
- B. 召会において真の一つ思いを実行することは、一を適用することです——使徒 1:14. 2:46。
- C. 一を実行することは一つ思いを伴っています。一が実行される時、それは一つ思いとなります：
1. ヨハネによる福音書において、主は一を強調しましたが、使徒行伝において一つ思いが強調されています——ヨハネ 10:30. 17:11, 21-23. 使徒 1:14. 2:46. 4:24. 15:25。
 2. 福音書と使徒行伝を区別する目印は、百二十人の間の一つ思いです—— 1:14：
 - a. 弟子たちはからだの中で一となっており、その一の中で一つ思いでひたすら祈り続けていました——エペソ 4:3-6. 使徒 1:14。
 - b. 使徒たちと信者たちが召会生活を実行した時、彼らは一の思いの中でそれを実行しました—— 2:46. 4:24. 5:12。
 3. 一は肉体のようであり、一つ思いは体の中の心臓のようです：
 - a. 一つ思いは一の心臓、核です。
 - b. わたしたちの病は体の中の心臓の病のようです。すなわち、わたしたちの間の病は、わたしたちが十分に一つ思いを持っていないということです。ですから、わたしたちは病んだ「心臓」を伴う一を保持しているにすぎません。
- D. わたしたちが一つ思いでないことは、わたしたちがからだを実行していないことを意味します：
1. 新約の正しい解釈によれば、一つ思いはからだです——ローマ 12:4-5. 15:5-6。
 2. わたしたちはからだの原則を実行しなければなりません。そうすればわたしたちは一つ思いを持ちます—— I コリント 12:12-13, 20, 27. 1:10。
- E. わたしたちに必要なのは一つ思いであって、一律になることではありません—— I ヨハネ 2:12-14：
1. 聖徒たちや諸召会の間に命の円熟の程度においてどんな違いがあっても

正常です。わたしたちはこの事柄において聖徒たちや諸召会を一律にしようと試みるべきではありません。なぜなら、命における成長の程度において一律を持つことは不可能であるからです——ピリピ 3:15。

2. 聖徒たちや諸召会の間で故意に持つあるどんな違いも不正常であり、罪定めされ、拒絶されるべきです。

II. 一つ思いは、わたしたちの内なる存在における、すなわち、わたしたちの思いと意志における調和を指しています——使徒 1:14 :

A. 使徒第 1 章 14 節において、「ホモスマドン」というギリシャ語が用いられ、一つ思いを指しています :

1. その言葉は人の全存在における内側の感覚の調和を示しています。
2. わたしたちは、わたしたちの魂の周りと同側で、同じ思いと同じ意志の中におり、同じ目的を持つべきです。これは、わたしたちの全存在が含まれることを意味します。

B. マタイ第 18 章 19 節においてギリシャ語の「スィムフォネオ」は、一つ思いを表徴するのに用いられています :

1. この言葉は、「調和する、あるいは一致する」を意味し、楽器や人の声の調和ある音を指しています。
2. 一つ思い、あるいは信者たちの間の内なる感覚の調和は、調和のあるメロディのようなものです。
3. わたしたちは、一つ思いを持つとき、神にとってメロディとなります。すなわち、わたしたちは単に文章において詩となるだけでなく、音において、声において、メロディにおいて詩となります。

III. 今日わたしたちが一つ思いであることができるのは、一つの、すべてを含むビジョン、すなわち、時代のビジョンを持っているからです——箴 29:18 前半、使徒 26:19 :

A. わたしたちのビジョンは時代に符合するビジョン、過去のすべてのもを含むビジョンであるべきです :

1. もし、わたしたちのビジョンが時代に符合しないものであるなら、わたしたちが一となることは不可能です。
2. 多くの人が神を愛し、神に仕えますが、すべての人は自分自身のビジョンを持っています。その結果として、一つ思いを持つことができません。
3. わたしたちが小さな点において異なる見方を持っている限り、一つ思いを持つことはできません——ピリピ 3:15。
4. 時代に符合するビジョンは創世記から啓示録に至るビジョンです——創 1:26. 啓 21:2。

B. 今日わたしたちが一つ思いとなることができるのは、一つの、すべてを含むビジョンを持っているからです :

1. 主がご自身の回復に与えたビジョンは、すべてを含むビジョン、すなわち、聖書におけるすべてのビジョンの究極的完成である新エルサレムです。この究極的完成の中にはすべてが含まれています—— 2, 10-11 節。
2. わたしたちはみな時代に符合するビジョンの中におり、同じ観点を持つ必要があります。

IV. 使徒たちの教えは、一つ思いを保持する要因です——使徒 2:42, 46 :

- A. 正しい一つ思いは使徒たちの教えにしたがっています—— 42 節。
- B. 使徒行伝は告げていますが、信者たちの間には一つ思いがあり、また一つ思いであったすべての人たちは使徒たちの教えを堅く持ち続けていました。
- C. 使徒たちはすべての場所で、すべての召会において同じことを教えました—— I コリント 4:17. 7:17. 11:16. 14:33 後半-34 :
 1. また、わたしたちは地の至る所で、あらゆる国のすべての召会において同じことを教えなければなりません——マタイ 28:19-20。
 2. 新約にはある教えが一つの召会にとって益であり、他の諸召会にとって益ではないという思想はありません。それどころか、新約は、すべての召会が教えを受けることにおいて同じであったことを啓示しています——テトス 1:9。

V. 一つ思いは、新約におけるあらゆる祝福に対するマスターキーです——エペソ 1:3. 詩第 133 篇 :

- A. わたしたちはみな召会が祝福を受けることを見たいのです。命を永遠までという主の命じられた祝福は、一の中で共に住んでいる兄弟たちの上に臨みます。
- B. 一つ思いは神の祝福をもたらす道です。神の祝福は一つ思いの状況にのみ臨むことができます。
- C. 神の祝福を受けるために、わたしたちは一を実行しなければなりません。一を実行する道は、一つ思いであることです——エペソ 4:4-6. 使徒 1:14。